

聖神°降臨祭

聖使徒行実の読み（2:1～11）

謹みて聴くべし

か　ひ　ごじゅんせつ　ひ　いた　しと　みな　こころ　いつ　とも　あ　たちま　てん　より
彼の日、五旬節の日、至りて、使徒、皆、心を一にして共に在り。忽ち、天より
こえ　はげ　かぜ　わた　ごと　さ　わか　した
聲ありて、迅しき風の度るが如し。彼等が坐せる所の家に満りて。岐れたる舌、火の
ごと　あらわ　かくじん　とどま　せいしん　いほう
如き者、彼等に現れて、各人に止めり。彼等、皆、聖神°に満てられて、異方の
ことば　い　はじ　しん　ごと
言を言い始めた。神°の彼等に言わしめしが如し。

とき　けいけん　しょこく　きた　お
時に、敬虔なるイウデヤ人、天下の諸國より来りて、イエルサリムに居る者あり。此の
こえ　おこ　とき　たいしゅう　あつま　さわ　けだし　おのおの　おのれ　ほうげん　かた　き
聲の作りし時、大衆、集りて躁ぎたり。蓋、各々、己の方言を語るを聞けり。
みな　おどろ　かつ　あやし　たがい　い
皆、駭き、且、奇みて、互に言へり、
み　こ　かた　もの　みな　あら　いか　おのおの　わ
『視よ、此の語る者は、皆、ガリレヤ人に非ずや。如何にして、我等は、各々、我が
うま　ほうげん　き
生れし所の方言を聞くか。我等は、パルフィヤ、ミディヤ、エラムの人、メソポタミヤ、イウ
デヤ、及びカッパドキヤ、ポント、及びアシャ、フリギヤ及びパムフィリヤ、エギペト、及
びキリネヤに近きリワイヤの地方に居る者、ロマより来りし者、イウデヤ人、及び進教者、
クリト、及びアラワイヤの人たるに、如何にして彼等が我が方言を以て、神の大用を語る
き　を聞くか』。